

# 内科 研修プログラム（必修）

## 1 研修先

以下の診療科を週単位でローテーションする。

- ・ ①総合診療科・感染症科、②循環器内科、③消化器内科／内視鏡内科、④呼吸器内科、⑤脳神経内科の5科：各4週 ※2年次時に一般外来研修の5週ローテを考慮
- ・ 腎臓内科、糖尿病・内分泌内科のいずれか1科を選択：4週
  - ※ 入院患者の一般的・全身的な診療とケア及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するため、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む。  
(研修する疾患が特定の領域や疾患、年齢に、極端に偏らないよう配慮する。)
- ・ 内科ローテーション中は、内科救急診療部で内科的疾患に係る救急患者の初療（診断及び初期治療）を行う。（当番制）

## 2 指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

## 3 診療科基本スケジュール（研修期間割、配置予定、週間予定等）

診療科基本スケジュール等については、関係診療科（総合診療科・感染症科、循環器内科、消化器内科・内視鏡内科、呼吸器内科、リウマチ科、脳神経内科、腎臓内科及び糖尿病・内分泌内科）の必修研修を参照してください。

### (1) カンファレンス

- ・ カンファレンス、学会、講演会には積極的に参加する。
- ・ 月1回第1水曜日内科医局会あり、研修医には症例報告をしていただきます。
- ・ 各診療科でそれぞれカンファレンスの予定があります。指示に従ってください。
- ・ 病院主催のカンファレンス、講演会に参加の少ない研修医は、研修委員会から注意します。

### (2) 基本的な診療における次の分野・領域等に関する研修（※必修）

	分野・領域等	担当診療科等（予定）	対応
①	予防接種等を含む予防医療 （予防接種以外の項目は今後検討 （例：成人病予防としての食事療法や 適度な運動、認知機能の予防 等）	総合診療科・感染症科 内科関係科	ローテ時に 対応
②	院内感染や性感染症等を含む感染対策	総合診療科・感染症科	講習会等※

※「講習会等」は院内・外の講習会又は研修医セミナーを指す。

### (3) 社会的要請の強い分野・領域等に関する研修（※研修に含むことが望ましい。）

	分野・領域等	担当診療科
①	感染制御チームの活動への参加	総合診療科・感染症科
②	薬剤耐性菌	総合診療科・感染症科

※研修医の希望に応じて、感染制御チームの活動に参加する。

## 4 研修目標

## 【一般目標】

- (1) 急性疾患  
内科的急性疾患（慢性疾患の急性増悪時）に対応できる基礎的診察能力を身に付ける。
- (2) 慢性疾患  
適正な診療を行うために必要な内科慢性疾患の病態について理解する。
- (3) 基本的検査および手技  
内科疾患の診療のために必要な基本的検査・手技の理解と習得を図る。
- (4) 医療記録  
内科疾患に対する理解を深め、問題志向型診療録記載方式を習得する。

## 【行動目標】

- (1) 急性疾患  
患者の病態を正しく把握し、迅速に検査計画を立て、実行する能力を身に付ける。
- (2) 慢性疾患
  - 1) 各領域での代表的慢性疾患の病態を理解する。
    - a) 消化器疾患：潰瘍性疾患、ウイルス性肝炎、消化器悪性腫瘍
    - b) 循環器疾患：冠動脈疾患、高血圧、心不全
    - c) 呼吸器疾患：呼吸障害、感染症、アレルギー・膠原病、肺癌
    - d) 内分泌・代謝疾患：内分泌疾患、糖尿病およびその合併症
    - e) 腎疾患：急性・慢性腎炎、急性・慢性腎不全
    - f) 神経疾患：脳血管障害、神経免疫疾患・脳炎・髄膜炎、パーキンソン病
    - g) 血液疾患：貧血
    - h) 免疫疾患：リウマチ性疾患、膠原病疾患、関節リウマチ
  - 2) 各領域での代表的慢性疾患に対する診断と治療を理解する。
    - a) 消化器疾患：画像診断（内視鏡、腹部エコー、腹部 CT など）、インターフェロン療法、消化器癌の集学的治療
    - b) 循環器疾患：心電図、心エコー、心カテーテル
    - c) 呼吸器疾患：画像診断（胸部レントゲン、胸部 CT、気管支ファイバーなど）、呼吸管理
    - d) 内分泌・代謝疾患：ホルモン負荷試験、糖尿病の病型と合併症の診断、インスリン療法
    - e) 腎疾患：腎生検による腎疾患の診断、慢性腎不全に対する薬物療法、透析療法
    - f) 神経疾患：神経画像診断（CT、MRI、SPECT など）、神経免疫療法（ステロイド治療、免疫抑制剤、大量γグロブリン療法、血液浄化治療）
    - g) 血液疾患：貧血の鑑別診断、輸血療法
    - h) 免疫疾患：運動器痛の診断、発熱性疾患の診断
  - 3) 疾患別クリニカルパスについて理解する。
  - 4) 終末期医療における疼痛管理、精神状態などを理解する。
- (3) 基本手技
  - 1) 全身の観察（視診）、身体計測を行うことができる。
  - 2) 頭頸部・胸部・腹部・四肢の診察を適切に行うことができる。
  - 3) 神経学的診察を適切に行うことができる。
  - 4) 採血を適切に行うことができる。

- 5) 検尿（尿沈渣）、検便（免疫便潜血反応）を適切にできる。
- 6) 血液および血液化学検査の結果を適切に判定することができる。
- 7) 末梢血塗抹標本、骨髄穿刺などについて理解する。
- 8) 心電図検査を行い、その結果を適切に判定できる。
- 9) 肺機能検査の結果を適切に判定できる。
- 10) 脳波、筋電図、神経伝導検査、誘発脳波検査などについて理解する。
- 11) 腹部エコー、心エコー検査を実施し、その結果を適切に判定する。
- 12) 胸腹部レントゲンの読影を適切にできる。
- 13) CT、MRIなどの画像診断を適切に判読できる。
- 14) 生検組織検査の結果を適切に判定することができる。
- 15) 消毒、清潔操作が正しくできる。
- 16) 末梢静脈の確保ができる。
- 17) 注射、点滴を適切に行うことができる。
- 18) 胃管の挿入ができる。
- 19) 胸腔穿刺・腹腔穿刺が正しくできる。
- 20) 感染の標準予防策実施ができる。

#### (4) 医療記録

- 1) 主訴、現病歴、家族歴、既往歴、身体所見を正確に記載できる。
- 2) 検査成績や画像検査所見の正確な記載ができる。
- 3) 処方や処置の正確な記載ができる。
- 4) 説明と同意取得の正確な記載ができる。
- 5) 入院時治療計画書や退院時療養指導書、退院サマリーを適切に記載できる。
- 6) 紹介状、返書の作成ができる。

## 5 経験すべき症候・疾病・病態

(PG-EPOCにある経験すべき・疾病・病態 55項目から診療科で経験可能な症候・疾病・病態)

経験すべき症候(※1)	ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁、排尿困難）、終末期の症候
経験すべき疾病・病態(※2)	脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、腎不全、糖尿病、脂質異常症

※1 外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

※2 外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

## 6 経験すべき手技 (PG-EPOCにある経験すべき手技の31項目から診療科で経験可能な手技)

気道確保、人工呼吸（バック・バルブ・マスクによる用手換気を含む）、胸骨圧迫、圧迫止血法、包帯法、採血法（静脈血・動脈血）、注射法（皮内・皮下・筋肉・点滴・静脈確保・中心静脈確保、腰

椎穿刺、穿刺法（胸腔・腹腔）、導尿法、ドレーン・チューブ類の管理、胃管の挿入と管理、局所麻酔法、創部消毒とガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合、軽度の外傷・熱傷の処置、気管挿管、徐細動、血液型判定・交差適合試験、動脈血ガス分析（動脈採血を含む）、心電図の記録、超音波検査（心・腹部）

## 7 実際の業務

- ・各内科診療科での専門性の高い臨床研修に加え、総合診療科・感染症科では内科全般について研修を行う。
- ・（内科救急診療部での）一次・二次救急に対応する。
- ・病歴聴取、身体診察を行い、指導医にプレゼンテーションを行う。臨床推論に基づき、考えるべき鑑別診断をあげ、検査・治療を含む方針を決定する。
- ・指導医とともに病状説明・患者教育を行う。

## 8 指導内容

- ・ベッドサイドでのリアルタイムの指導・フィードバック
- ・症例プレゼンテーション、診療録に関するフィードバック
- ・紹介状や退院サマリーの確認、フィードバック
- ・個々の症例に対するマネジメントの相談、指導

## 9 方略・評価 ※厚労省の定める「臨床研修の到達目標、方略及び評価」による

- ・診療科基本スケジュールに沿って研修を行うほか、オリエンテーション（業務内容や主な感染症のマネジメントの要点説明等）や病棟回診（テーブル回診、患者診察）、患者・家族説明への同席、カンファレンスを実施する。
- ・担当医として経験した症例を指導医にプレゼンテーションを行い、指導を受ける。
- ・研修終了後、指導医、メディカルスタッフから評価、フィードバックを受ける。